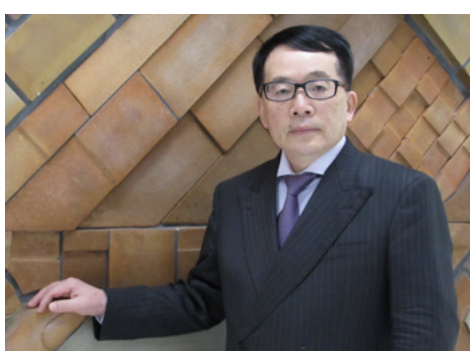


# 農政における 「食料自給率」と「担い手」



## 鈴木宣弘

東京大学大学院 教授

すずき・のぶひろ／1958年三重県生まれ。東京大学農学部卒業後、農林水産省入省。農業総合研究所研究交流科長、九州大学教授などを経て、2006年より現職。食料安全保障推進財団理事長。専門は農業経済学、国際貿易論。『農業消滅 農政の失敗がまねく国家存亡の危機』（平凡社新書）、『協同組合と農業経済 共生システムの経済理論』（東京大学出版会）ほか著書多数。

今後の農政の方向性を定める食料・農業・農村基本法の見直しにおいて、食料自給率の位置づけが後退し、多様な担い手の位置づけも後退している。自給率向上を重要な目標とせず、一部の目先の「効率性」を追求する方向性が強まっている。「自給率向上を目標に掲げると非効率な経営まで残ってしまう」という視点も透けて見える。

## ■ 食料自給率の位置づけを格下げ

現行基本法はGATTウルグアイラウンド合意を「過剰優等生」的に受け入れ、「市場原理主義」に立脚して価格政策（政府買い入れ）などを廃止していく流れをつくった。

その現行基本法の見直しを今やるということは、世界的な食料需給情勢の悪化を踏まえ、「市場原理主義」の限界を認識し、肥料、飼料、燃料などの暴騰にもかかわらず農産物の販売価格は上がらず、農家は赤字にあえぎ、廃業が激増している中で、不測の事態にも国民の命を守れるように国内生産への支援を早急に強化し、食料自給率を高める抜本的な政策を打ち出すためだ、と誰もが（少なくとも筆者は）考えたが違っていた。

驚くべきことに、基本法の「中間とりまとめ」では食料自給率という言葉がなく、「基本計画」の項目で「指標の1つ」と位置づけを後退させ、食料自給率向上

の抜本的な対策の強化などは言及されていない。「指標の1つ」となったことと、審議会関係者の「食料安全保障を自給率という一つの指標で議論するのは、守るべき国益に対して十分な目配りがますますできなくなる可能性がある」との指摘が呼応する。

また、「平時の食料安全保障」と「有事の食料安全保障」という分け方が強調されているが、「不測の事態でも国民の食料が確保できるように普段から食料自給率を維持することが食料安全保障」と考えると、分ける意味があるのだろうか。一方で、有事には、作目転換も含めて、農家に増産命令を発する法整備をする方向性が示された。現状の農業の苦境を放置したら、日本農業の存続さえ危ぶまれているのに、どうして有事の強制的増産の話だけが先行するのか。



食料自給率を高める抜本的な政策が必要だと語る

以前から、「平時は輸入しておけばよい」という意味で「平時」を使う自由貿易論者もいたが、結局、今回の整理も、食料自給率は低くとも、平時は輸入に頼り、有事は強制的な増産命令で凌げばいいということになるのか。今回の基本法の見直しでは、食料自給率の位置づけを、むしろ「格下げ」し、自給率低下を容認することを、今まで以上に明確にしたとも言える。

## ■ 再び「多様な農業経営体」の否定へ

2015年の基本計画（基本法に基づいて5年毎に策定される）は、狭い意味での経済効率の追求に傾斜した大規模・企業化路線の推進が全体を覆うものとなったが、2020年基本計画は、前々回の2010年計画のよかった点を復活し、長期的・総合的視点から、多様な農業経営の重要性をしっかりと位置づけた。

すなわち、2020年基本計画は、あくまで「担い手」を中心としつつも、規模の大小を問わず、「半農半X」（半自給的な農業とやりたい仕事を両立させる生き方）なども含む多様な農業経営体を、地域を支える重要な経営体として一体的に捉える姿勢が復活した。

しかし、九州大学磯田宏教授は、今回の基本法の見直しでは、農業担い手としての「多様な経営体」を否定し、「経営所得安定対策」の対象になるのは「効率的かつ安定的な農業経営」のみとされ、結局「効率的かつ安定的な農業経営」「専業農業者」主義（現行法第21条、第22条）へ逆流している、と指摘する。

生源寺眞一東大名誉教授も、「大規模担い手が農政の柱であるのは変わらない。だが情勢変化を直視すべきだ。新規就農の半分以上を占める60歳以上も支援し

ながら、いろいろなタイプの農業者が共存する姿、それこそが基本法見直しを経た新たな日本農業・農村の明かり、道かもしれない。次の時代の指針ともなるかもしれない」と指摘する。

20年ぶりの基本法の改定で、2020年基本計画でも一度反省され、コロナ禍でも反省したはずなのに、目先の効率性があるものだけが残ればコミュニティは崩壊してもよいかの議論が復活している。これを進めれば、日本の多くの農村地域が原野に戻り、地域社会と文化も消え、食料自給率はさらに低下し、不測の事態には、超過密化した東京などの拠点都市で、餓死者が出て、疫病が蔓延するような「いびつな国」になる。これでよいのだろうか。